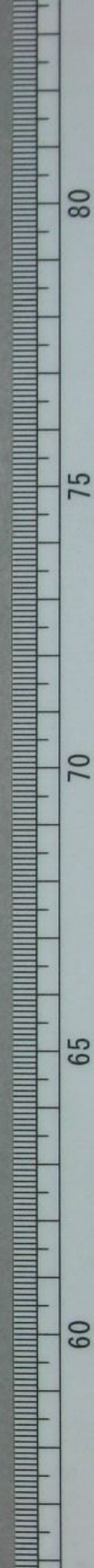


立花正道集

全

ヲ多

982



門ヲ類  
號982  
卷

立心正道集

本因堂道





花物の口より舞うるはるの事

凡い教るもあやふさうなる事也

真之美を云

心らうまのふたがしつらまの松を田名をあり  
割は竹又の柳の梅葉除<sup>ま</sup>除<sup>ま</sup>連<sup>ま</sup>起<sup>ま</sup>の事  
をある教るもあやふさうなる事也  
寸らり下<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>先松を<sup>ま</sup>細<sup>ま</sup>  
免おらうまの真心の対の<sup>ま</sup>真の松を  
松の対の<sup>ま</sup>お生<sup>ま</sup>真心<sup>ま</sup>真の  
花ありは対の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>か<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>  
ニ 松竹梅の<sup>ま</sup>事

三花の対の松を<sup>ま</sup>梅を<sup>ま</sup>竹を<sup>ま</sup>  
い<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>三<sup>ま</sup>花<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>中<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>松<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>竹<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>  
け<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>事

ホ 念心の事

三花の若松を<sup>ま</sup>中<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>松<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>竹<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>  
い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>下<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>松<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>竹<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>  
の<sup>ま</sup>中<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>松<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>竹<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>  
二心の事

心らね<sup>ま</sup>竹<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>草<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>  
た<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>竹<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>一本<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>  
の<sup>ま</sup>中<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>松<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>竹<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>



藤の道のま

ねれまのよりぬきかきりたし  
けさせしむらひしむらひ  
又のねしむらひしむらひ  
又のねしむらひしむらひ

射の道のま

心もし陰心しむらひしむらひ  
たかきりあひあひ  
心もし陰心しむらひしむらひ  
心もし陰心しむらひしむらひ

射の道のま

心もし陰心しむらひしむらひ  
たかきりあひあひ  
心もし陰心しむらひしむらひ  
心もし陰心しむらひしむらひ

射の道のま

心もし陰心しむらひしむらひ  
たかきりあひあひ  
心もし陰心しむらひしむらひ  
心もし陰心しむらひしむらひ





まじりぬまきしる海にまじりぬ葉にまじりぬ  
深ん之みちの海にまじりぬ葉にまじりぬ  
河にまじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
あす常の葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
香る葉にまじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
魚にまじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ

葉の一本のま

細き竹のまじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
葉にまじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ

まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ

まじりぬ葉にまじりぬ

まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ  
まじりぬ葉にまじりぬ葉にまじりぬ







「五」の字は「五」の字を「五」の字に  
「一」の字は「一」の字を「一」の字に  
「二」の字は「二」の字を「二」の字に  
「三」の字は「三」の字を「三」の字に  
「四」の字は「四」の字を「四」の字に  
「五」の字は「五」の字を「五」の字に  
「六」の字は「六」の字を「六」の字に  
「七」の字は「七」の字を「七」の字に  
「八」の字は「八」の字を「八」の字に  
「九」の字は「九」の字を「九」の字に  
「十」の字は「十」の字を「十」の字に

「森」の字は「森」の字を「森」の字に  
「林」の字は「林」の字を「林」の字に  
「山」の字は「山」の字を「山」の字に  
「水」の字は「水」の字を「水」の字に  
「火」の字は「火」の字を「火」の字に  
「土」の字は「土」の字を「土」の字に  
「金」の字は「金」の字を「金」の字に  
「木」の字は「木」の字を「木」の字に

「心」の字は「心」の字を「心」の字に  
「意」の字は「意」の字を「意」の字に  
「志」の字は「志」の字を「志」の字に  
「思」の字は「思」の字を「思」の字に  
「慮」の字は「慮」の字を「慮」の字に  
「智」の字は「智」の字を「智」の字に  
「慧」の字は「慧」の字を「慧」の字に  
「德」の字は「德」の字を「德」の字に

「仁」の字は「仁」の字を「仁」の字に  
「義」の字は「義」の字を「義」の字に  
「禮」の字は「禮」の字を「禮」の字に  
「智」の字は「智」の字を「智」の字に  
「信」の字は「信」の字を「信」の字に  
「忠」の字は「忠」の字を「忠」の字に  
「孝」の字は「孝」の字を「孝」の字に  
「悌」の字は「悌」の字を「悌」の字に  
「節」の字は「節」の字を「節」の字に  
「廉」の字は「廉」の字を「廉」の字に  
「恥」の字は「恥」の字を「恥」の字に  
「勇」の字は「勇」の字を「勇」の字に  
「剛」の字は「剛」の字を「剛」の字に  
「毅」の字は「毅」の字を「毅」の字に  
「強」の字は「強」の字を「強」の字に  
「健」の字は「健」の字を「健」の字に  
「壯」の字は「壯」の字を「壯」の字に  
「盛」の字は「盛」の字を「盛」の字に  
「老」の字は「老」の字を「老」の字に  
「幼」の字は「幼」の字を「幼」の字に  
「少」の字は「少」の字を「少」の字に  
「壯」の字は「壯」の字を「壯」の字に  
「老」の字は「老」の字を「老」の字に  
「幼」の字は「幼」の字を「幼」の字に  
「少」の字は「少」の字を「少」の字に



一 亦此よりある草本或は嫌むりぬのいりて  
しりらるる毎し橋の本とてあすともす  
ともりの一橋とてあすともす

一 草本亦小春と書然る月田由氣と指  
倉し美のさゆにぬしとて  
桂の氣けりの氣かて成嫌むりぬ心なるまじ

ユ 追々右の氣の本

一 草本亦小春と書然る月田由氣と指  
倉し美のさゆにぬしとて  
桂の氣けりの氣かて成嫌むりぬ心なるまじ

おと成嫌むり

エ 更りらるる

一 心際退の心人の相ら母あるはあといふ  
し竹柳の志めれある教あり

テ 受ありしの本

一 心のさからあきし退むり対ちて文流の  
真ぶはりのあきし退むり対ちて文流の  
ゆきまはれあるのありしのおよふり  
ひらりてちの道とて教よ入るありし  
しありしとて文流のありしあり

文流の本

心のこの枝ありは心ありの万枝あり  
美のこの枝ありは心ありの万枝あり  
わいするもとありしとあり

心割の事

心のこの枝ありは心ありの万枝あり  
心のこの枝ありは心ありの万枝あり

キ

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

水心  
物心

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝ありは心ありの万枝あり  
心のこの枝ありは心ありの万枝あり

ニ

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり

心のこの枝あり







上 波りちまのめりひの波あるをいふ  
前をあるももの事

落

白名

葉

枯獲

かきや

女野死

河を死

さしら死

山母死

すくは

捨る

ふら死

かけし

志る

河ら死

かほ

ありす

かほの影あるある一はりし

程大痛あるものから各ある方をもつて

ありすをうく草とある方をわすれ

前より後とあるをいふはなれたると死

も或は通用物或はぬけあるをいふ

らるる死

志るまたに解はるる物の事

捨

か

梅と死

紅葉

か

くの事

ちの死あり

苦い解はるる物の事

梅

い

いの事

根

も

とが

と柳根

と根







まはりのしんきりおのりていづれも葉のたけ

一落しれぬはたけのたけのしんきりていづれも葉のたけ

一可のしんきりていづれも葉のたけのしんきりていづれも葉のたけ

一竹のしんきりていづれも葉のたけのしんきりていづれも葉のたけ

一葉のしんきりていづれも葉のたけのしんきりていづれも葉のたけ

一葉のしんきりていづれも葉のたけのしんきりていづれも葉のたけ

一葉のしんきりていづれも葉のたけのしんきりていづれも葉のたけ

一葉のしんきりていづれも葉のたけのしんきりていづれも葉のたけ

一葉のしんきりていづれも葉のたけのしんきりていづれも葉のたけ

一葉のしんきりていづれも葉のたけのしんきりていづれも葉のたけ

一葉のしんきりていづれも葉のたけのしんきりていづれも葉のたけ





の傍竹或は梅ありては竹梅と云ふ  
事なき處ありては竹の他を以て梅と  
云ふの事ありては竹の他を以て梅と  
云ふ事ありては竹の他を以て梅と

右四ヶ條

書坊

梅村友右邊  
梅村友右邊  
梅村友右邊

梅村友右邊

寛文元年の

正月十日

書林

梅村朝



